

戦後80年

戦争と子どもたち

2026.1.31 土 sat
3.22 日 sun

前期:2026年1月31日(土)~2月23日(月・祝) 後期:2026年2月25日(水)~3月22日(日)
※会期中、一部展示替えをおこないます。



松本境介〈りんご〉1944年 個人(板橋区立美術館寄託)

開館時間 | 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
休館日 | 毎週月曜日(2月23日[月・祝]は開館、翌日休館)
観覧料 | 一般 800(640)円 高校・大学生、65歳以上 500(400)円
()内は20名以上の団体料金/中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料
主 催 | 郡山市立美術館

戦後 80 年 戦争と子どもたち

今から約 80 年前、美術家たちは戦中・戦後を生きる子どもたちをどのように表現したのでしょうか。また、当時の子どもたちはどのような美術に触れていたのでしょうか。

戦時下、画材が配給制となり、作品の発表や表現にも制限が加えられる厳しい状況においても、美術家たちは子どもたちを希望の象徴として表現しています。しかし一方で、当時の子どもたちは「少国民」として育まれる存在でもありました。出征する兵士を見送り、勤労奉仕に参加するなど、総力戦を支える一員としての姿もまた、作品に表されています。そして戦後、焼け野原となった場所から立ち上がる時にも、子どもたちの姿は心の支えとして描かれたのです。

本展では、戦時中から終戦直後にかけて制作された、子どもを主題とする作品や、子どもたちに向けてつくられた絵本や教科書、紙芝居、さらには子どもたち自身が戦時下に描いた作品をご紹介します。これらの「子ども」をめぐる美術を、その時代背景とともに読み解くことで、激動の時代に美術家たちが子どもたちにどのような眼差しを向けていたのかを検証します。

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp

～本展の見どころ～

- ・ 戦中、終戦直後に制作された「子どもたち」を主題とする絵画や彫刻作品約 80 点
- ・ 「作戦記録画」などには描かれない、戦時下を生きる「子どもたち」の姿を紹介
- ・ 美術作品だけではなく、子どもたちに向けてつくられた絵本や教科書、紙芝居を展示
- ・ 戦時中に子どもたち自身がクレヨンなどで描いた作品も展示

～展示構成～

第1章 童心の表象

大正時代の流れを受け、純粋で無垢な子どものイメージが広まった 1920～30 年代。無邪気に遊ぶ姿やあどけない表情の子どもたちが多くの作品に登場しました。この章では、子どもたちの「子どもらしい」姿を描いた作品をご紹介します。

第2章 不安の表象

徐々に戦争の足音が近づくと、「子どもらしさ」とは対照的に、うつむき加減で悲しげな表情を浮かべる子どもや防空頭巾を被った子どもたちが描かれるようになります。この章では、美術家たちが、戦争による閉塞感や自身の不安な気持ちを、子どもたちの姿に投影した作品をご紹介します。

第3章 理念の表象

日本が本格的な総力戦体制に入ると、子どもたちの生活からも自由が奪われるようになります。この章では、社会が戦争一色に染まるなか、出征する家族の見送りや慰問、勤労奉仕といった戦時の理念に従う子どもたちの姿をご紹介します。

第4章 明日の表象

戦時下の重苦しい空気の中、子どもたちは小さな希望の光でもありました。画家たちにとって、子どもたちは描くことの喜びに改めて気づかせてくれるかけがえのない存在でした。この章では、幼い子どもたちに向けた画家たちのあたたかい眼差しをご紹介しますほか、当時に子どもたちが描いた作品も併せて展示します。

第5章 再建の表象

1945 年 8 月 15 日、戦争は終わりを迎えます。美術家たちも各地から復員し、生活基盤を整えるとともに美術団体の再建や結成に奔走しました。最後の章では、焼け野原となった街に生きる子どもたちのリアルな姿を記録した作品、「戦後」という新しい時代への希望を子どもたちに託した作品をご紹介します。

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp

～展覧会概要～

展覧会名 戦後 80 年 戦争と子どもたち

会 期 2026 年 1 月 31 日（土）～ 3 月 22 日（日）

※会期中、一部展示替えをおこないます。

前期：1 月 31 日（土）～ 2 月 23 日（月・祝）、後期：2 月 25 日（水）＝ 3 月 22 日（日）

時 間 9 時 30 分～17 時 00 分（展示室への入場は 16 時 30 分まで）

休 館 日 毎週月曜日（2 月 23 日（月・祝）は開館、翌日休館）

会 場 郡山市立美術館（〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2）

観 覧 料 一般 800 (640) 円 高大生・65 歳以上 500 (400) 円

＊（ ）内は 20 名以上の団体料金

＊企画展観覧料で常設展もご覧いただけます

＊中学生以下の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主 催 郡山市立美術館

[交通案内]

バス：JR 郡山駅前 5 番のりば

「美術館経由東部ニュータウン行き」または

「齋藤経由三春行き」約 15 分

「郡山市美術館」下車すぐ

乗用車：磐越道「郡山東 I.C.」より約 20 分

駐車場 130 台

最新情報は美術館ホームページでご確認ください。

郡山市立美術館

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>



郡山市立美術館 SNS



【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp

～関連イベント～

・講演会「戦時美術の『子どもたち』」

日時：2月22日（日）午後2時から

会場：多目的スタジオ（入場無料、申込不要）

講師：河田明久さん（千葉工業大学教授）

・講演会「子どもの紙芝居、おとなの紙芝居―戦時下紙芝居を考える」

日時：3月1日（日）午後2時から

会場：多目的スタジオ（入場無料、申込不要）

講師：大串潤児さん（国立歴史民俗博物館教授）

・美術講座

① 「戦争と子どもたち―『疎開』と『勤労』」

日時：3月7日（土）午後2時から

講師：当館学芸員

会場：多目的スタジオ（入場無料、申込不要）

② 「戦時下の子どもの表象」

日時：3月15日（日）午後2時から

講師：当館学芸員

会場：多目的スタジオ（入場無料、申込不要）

・ギャラリートーク

日時：2月15日（日）、2月28日（日）各回とも午後2時から

会場：企画展示室（要企画展観覧券、申込不要）

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp

～広報用画像～

画像の使用をご希望の場合は、e-mailにてお問い合わせください。

e-mail : art956k@bz04.plala.or.jp



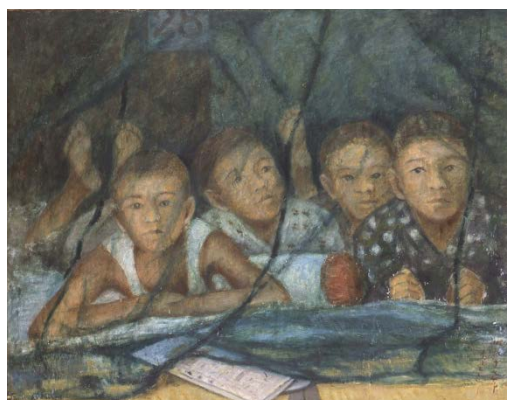
小林猶治郎《童心双六》1937 年
練馬区立美術館蔵



小杉放菴《金太郎遊行》1944 年
栃木県立美術館蔵



今西中通《子供を抱く女》1943 年頃
郡山市立美術館蔵



水原房次郎《夏の夜、戦果をきき入る少年達》
1942 年 福岡県立美術館蔵

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp



中澤弘光《別れの乳房》1940-44 年頃
日本赤十字社秋田県支部蔵



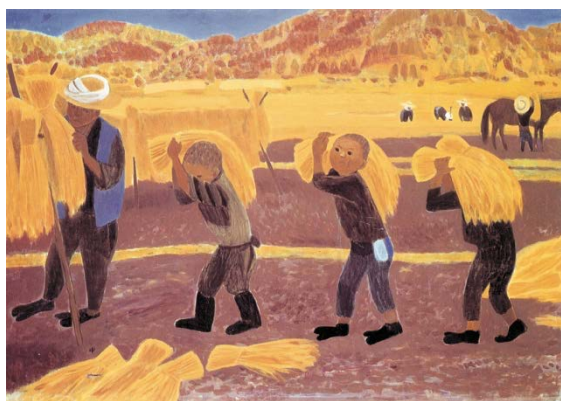
浜松小源太《遺児すこやか》1941 年
大館郷土博物館蔵



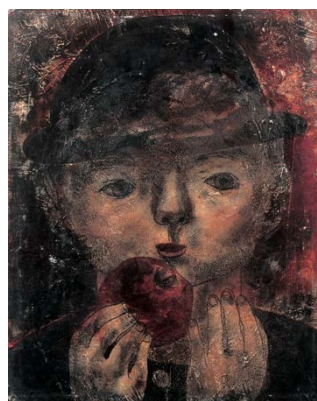
服部喜三《燈火管制》
1943 年 京都市美術館蔵



新海覚雄《貯蓄報国》1943 年
板橋区立美術館蔵



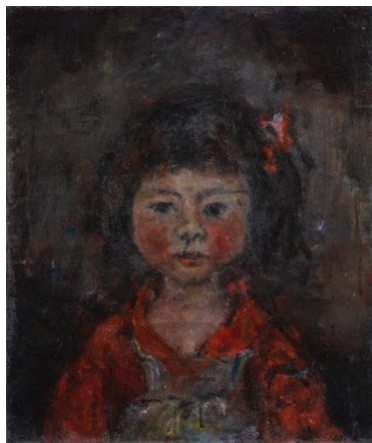
中尾彰《勤労奉仕》1944 年
茅野市立北山小学校蔵



松本竣介《りんご》1944 年
個人蔵（板橋区立美術館寄託）



檜原健三《街頭にて》1946年 個人蔵



麻生三郎《子供》1948年 弥栄画廊蔵

【広報用画像貸出の注意事項】

- ・使用目的は本展のご紹介のみに限ります。
- ・使用後、画像データは速やかに破棄してください。
画像データの保存および第三者への提供は禁止します。
- ・トリミング、部分使用、文字乗せ、色調変更、二次使用は禁止します。
- ・掲載する際は、各画像のキャプションを必ず記載してください（下記参照）。
- ・掲載紙は、学芸課担当者宛に1部ご送付をお願いします。

【本展に関するお問い合わせ先】

郡山市立美術館 担当：塚本敬介

Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350 E-mail : art956k@bz04.plala.or.jp